

厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）  
医療安全地域連携加算等による医療経済・医療安全上の影響の検証と  
効率的かつ効果的な体制構築に向けた研究

分担研究報告書

特定機能病院と地域の医療機関における医療安全対策の連携の実際（工夫と課題）  
地域連携への助言：地域ネットワークの視点：「南大阪医療安全ネットワーク」の経験から

研究分担者 辰巳 陽一 近畿大学病院・安全管理センター・  
医療安全対策部部長・教授

**研究要旨**

医療の安全は、これまで特定機能病院クラスの大規模病院を中心に展開されており、その方法論も大型急性期病院のものをそれ以外の中小病院に当てはめるというやり方が、継続されている。一方で、わが国の医療機関を病床規模別に見てみると、200床未満が70%、300床以下になると80%を占めており、大型病院の医療安全システムの下で庇護されてきた患者は、退院・転院後中小病院に移っていくが、その時点で医療安全のレベルが下がることは、概念的には容認しがたい。また、中小病院での医療安全管理は、医療安全への医療政策上の資金配分が極めて乏しいことを背景に、ワンオペと言われている1名の医療安全管理者が運営していることが大半である。さらに、このような病院で医師が積極的に医療安全に本質的に関与している例は、ほとんど認められず、大半は看護師が中心である。さらに、医療安全に関するキャリアパスが制度的あるいは実質的に担保されていないことから、多くの中小病院の医療安全管理者は、2-3年以内に、それも前任者と医療安全業務を行うことなく、唐突に医療現場に戻っていく。このことは、少なくとも、中小医療病院の医療安全の経験値に関しては、DNAの蓄積がなく、周期的にノービスクラスを維持していることを意味する。我々は、2013年から、堺医療圏、南河内医療圏の医療施設を対象に、地域の医療安全のレベルを維持することを目的として、研修活動の中で医療安全情報を共有するとともに、その内容をその施設レベルに咀嚼することを目的とした「南大阪医療安全ネットワーク」活動を開始した。また、平成29年の医療法改正に伴う医療安全対策地域連携加算1-2病院の連携について、その運営方法、連携方法などについて一部の病院と連携を取っている。本研究の目的は、地域ネットワーク活動としての「南大阪医療安全ネットワーク」活動の効果を検証するとともに、南大阪医療安全ネットワークで行っている、医療安全対策地域連携加算1-2病院の運営補助活動の実情とその意義を検証することを目的とした。アンケート調査や関係者のヒアリング等から、南大阪医療安全ネットワーク活動については、内容を可能な限り現場の希望に対応しつつ、中小病院の現場の医療安全レベルの向上に寄与していると考えられた。また、南大阪地域での医療安全対策地域連携体制についても、登録病院間で毎年組み合わせを変えて審査を行い、その情報をグループ内で共有することで参加施設の良好な満足度を得ていた。今後それぞれの活動について、医療経済的な効果についても検討するが、地域医療安全レベルの底上げをする活動の意義を多様な視点から導き出す姿勢も併せて必要である。

**A. 研究目的**

（背景）平成29年の医療法改正で追加された特定機能病院間のピアレビュー、そして、平成30年に新設された「医療安全対策地域連携加算」により、医療機関間の医療安全の連携が可能となったが、これらの

施策の本質的な医療安全への寄与については、経済的な観点も含め明らかにされていない。一方で、地域における医療安全の現状に目を向けると、わが国の医療施設の70-80%は、200床以下の施設で占められているにもかかわらず、その大半の施設にお

いて医療安全管理者は一人であり、また約2～3年で交代することが多く、医療安全における知識・経験の蓄積を継承していくことが難しい。従って、地域における医療安全のレベルの維持には、現在の大型病院中心の医療安全のみならず、効果的な地域における医療安全連携の形は欠かせない。

(目的) そこで本研究分担において、地域におけるネットワークの形成の現状とその意義および医療安全対策地域連携加算による1-2連携の実情と効果について検証し、効率的かつ効果的な医療安全の連携体制の構築(介護施設等含む)に向けた提言を行うことを目的とした。

<各年度の目標>本研究は2年間で実施する:

ー研究1年目には、

1) 我々が10年間行っている、南大阪医療安全ネットワークの医療安全の地域連携体制(介護施設等含む)における実情の確認を参加病院対象に(113病院:大阪エリア計79病院、近畿圏内計18病院、その他16病院)要望等の聞き取りと併せて施行する。

2) 南大阪医療安全ネットワーク内で同定された地域連携体制の運用実態・効果・課題等の聞き取り、評価を行う。

3) 医療経済学的評価方法の検討の可能性について2年目前半にかけて検討する。

ー研究2年目には、1年目に得られた現状把握・効果検証のデータから、医療安全上の効果を含む医療経済学的評価の分析を実施する。その結果をもとにモデルとなる医療安全の連携体制(介護施設等含む)の検討・提示を行う。このとき連携を推進する医療安全上の技術的助言支援ツールも作成する。

## B. 方法

1) 南大阪医療安全ネットワーク研修会活動内容について南大阪医療安全ネットワーク事務局から、参加医療機関にアンケートを行い、回答および活動に対する要望を抽出した。

2) 南大阪医療安全ネットワーク内での1-2連携の現状と報告結果を1-2連携担当者で協力し収集した。

## C. 研究結果

1) 南大阪医療安全ネットワーク活動内容  
南大阪医療安全ネットワーク(SO-PSNET)は、2013年8月に発足し、現在まで44回を数えている(43回は中止)。

背景としては、①医療安全についての情報・ノウハウが足りない、②医療安全に対する金銭的援助を組織内で受けることが困難、③医療安全管理者が兼任であることによる時間の不足、④医療安全スタッフの不足、⑤経営陣の医療安全活動への必要性理解の不足という、南大阪地域の100床程度の病院の孤立した医療担当者の意見を受けて、医療安全に関する悩みを地域で共有し、解決を図るための試みとして、南大阪地域(堺市二次医療圏と南河内二次医療圏)の医療機関を対象として開始した。運営方針として、定期的な研修活動を中心に、①基本的に、職種、医療安全レベル、地域の制限を設けない、②参加費無料(2024年4月から、100円に変更)、③研修テーマを参加病院も含めて決定、④研修関係資料のプロテクションのない完全持ち帰り(マニュアル、プロトコール、スライド)、⑤個別相談用メーリングリストの設置、⑥研修テーマを各施設でその場で話し合い、自施設に持って帰れる状態まで咀嚼・加工することを目的としたワークショップを中心に活動を行っている。

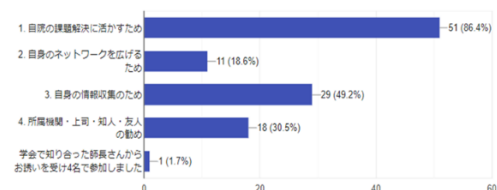
開催においては、近畿大学病院を含む、堺・南河内医療圏8病院を幹事病院とし、①事前に参加施設から得たアンケートを基にテーマ決定、②ファシリテーションの要点の確認および進行内容決定を2回の幹事会で行い、研修会を迎えるという形式を踏襲している。研修の目的は、100床前後の中小病院の医療安全レベルの維持と最新の医療安全情報の共有にあるが、参加病院は特定機能病院から介護施設まで多様であり、毎回のテーマを参加施設のレベル・現状に併せて咀嚼することが重要であり、上意下達型の単純な情報発信だけでは、十分な理解を得ることが難しいという意見をネットワーク開始時点の聞き取りから得ている。このことから、ネットワーク研修会の開催は、①情報提供(講義・講演)1時間程度、②事前にメンタルモデル共有後のファシリテーターを中心としたグループワーク1時間、③全体討論1時間の

計3時間という構成で行っている。なお、医療安全の経歴については新人からベテランまで多彩であるため、基礎的内容と新規情報を隔回で実施するようにしている。しかしながら、現在でも医療安全情報を事務部門が扱っており、メール相談が自由に行えない、定期的に医療安全担当者が交代するため習得した医療安全知識・意識を継承できないという悩みが明らかになってきている。

第42回南大阪医療安全ネットワーク（Zoom開催）参加者のアンケート内容を紹介しますと、参加動機は、個人の安全管理上の悩みの解決が多く、研修の満足度は極めて高く、内容に対して普通、やや不満という回答者のコメントも、勤務時間でありしばしば抜けなければならない、Zoom参加者の一部が視聴だけで討論に参加しないなどであり、内容に関する満足度は、ほぼ100%であった。次回参加希望についても、Zoomでないとは参加できない等の意見の方以外は、100%次回参加希望をいただいている（図Q.1-3）。一方で、開催形式に関しては、大阪外の地域からの参加者（15/15）は、Zoom参加希望であったが、大阪地域の参加者は大半が（38/44）対面開催希望であった。理由としては、個人的な悩みを話しやすい、施設の顔が見えているという意見が多く、全国各地域での同様の双方向性の研修会開催が望まれていることが伺い知れる（資料非表示）。

Q1. 本研修に参加した目的・理由をお教えてください。（複数選択可）

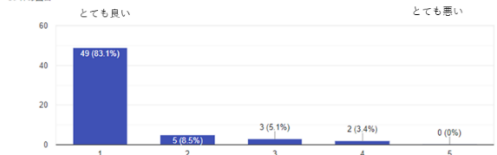
59件の回答



Q2. 本ミーティングはいかがでしたか。

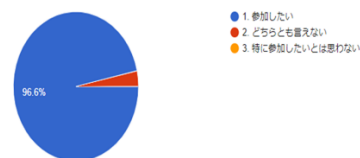
\* (1つ選択)

59件の回答



Q.3 今後同様のミーティングを開催した際、ご参加を希望されますか。

59件の回答



一方で、南大阪医療安全ネットワークにおける開催内容の希望については、医療安全活動の実践、後継者問題から、画像見落とし対策まで、参加者、参加施設によって多彩であり、基本的な内容から、先進的なものを意識的に混在させる、現行のテーマ選択の妥当性をうかがわせた（表参照）。

#### 次回研修会開催内容の要望

1. 医療安全活動実践の悩み
2. 後継者育成
3. 部門リスクマネジメントの会議の進め方
4. マニュアルの整備
5. 業務チェック（ラウンド）方法や内容
6. 安全研修会の実施（働き方改革との矛盾）
7. インシデント報告運用（件数増加・実運用）
8. 身体拘束最小化、離床センサー使用
9. 合併症患者対応について
10. 救急カート薬剤の点検の現状等
11. 院内発生 の褥瘡、感染のインシデント報告の流れ
12. 転倒転落転防止対策について
13. ダブルチェック
14. 指さし呼称
15. 誤薬防止対策の本質
16. 画像の見落とし確認

#### 2) 南大阪医療安全ネットワークにおける、医療安全地域連携（1-2 連携）の現状

南大阪医療安全ネットワークでは、平成30年から施行された「医療安全対策地域連携加算」実施に際し、参加病院からの問い合わせを受けたことから、この制度における要点・課題を検討し、グループ内で規約の範囲内で独自に話し合いを繰り返しながら対応方法の改善を繰り返している。当初、話し合わせ、その後現実に発生した内容としては、すべての加算1の病院が質の良い安全管理業務を行っているわけではないが、加算のために、事務的に連携病院が選択された場合、連携締結後の不満が生まれることを想定した。事実、後年、他の地域でこの問題は実際に存在している。また、この連携システムは、継続的に課題の改善状況を観察できるという優れた点がある一方で、視点が画一的になることからの形骸化、地域によって、加算1病院、加算2病院の比率が大きく異なることから

のシステム上の問題も懸念された（表）。

医療安全地域連携加算の潜在的問題点・改善点

- ① 事務的なマッチメークの結果、無効な相互ラウンドになる可能性（形式的加算I病院の存在）
- ② 医療安全に関する概念が病院間で異なる場合
- ③ 医療安全レベルが極端に違う場合（一方的に情報を与えることになる）
- ④ 継続的改善情報の獲得とマンネリ化
- ⑤ 地域的な問題で、I 病院、II病院の比率が偏る場合
- ⑥ 施設間の距離が地理的に遠い場合

そこで、南大阪医療安全ネットワーク（NW）内での連携希望病院に関しては、①初年度は、NW 幹事病院で会議や訪問病院の決定をしたが、②2 年目からは、NW1-2 連携参加病院による NW1-2 連携会議で検討した結果、受審病院の組み合わせは、登録している 1-2 施設間での輪番制に変更するとともに、年度末に活動（相互評価）状況の報告と評価、次年度の活動について、参加病院全体で意見交換することとした（図）。

		受審病院									
		加算1					加算2				
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	
評価参加病院	加算1	A	2020	2018 2019	2019 2021	2018 2019	2018 2019	2020	2019	2021	
	B	2019	2018 2021	2018 2020	2019	2020	2021	2018	2019		
	C	2018 2021	2018 2019	2019	2020	2018	2019	2021	2018	2019	
	D	2018	2019	2019 2020	2018 2021	2019	2018	2020	2021		
	E	2019 2020	2018 2021	2019	2018	2018 2019	2019	2018	2020		

③次年度の訪問時の日程調整や事前打ち合わせも、NW1-2 連携会議において、相互間で調整して訪問受審を実施し、NW 内で相互受審をしていない施設間の医療安全情報も、NW 内の会議で共有することとした。④相談事項等は、チェックシートに記載していただき、NW1-2 連携会議にて事前情報共有するとともに、NW 幹事病院、大阪府看護協会府南支部に質問することとしている。⑤医療安全対策地域連携加算の連携方法は、ラウンドを受ける病院が主となり、ラウンドを行う病院と日時や評価部署などを調整することとし、対面あるいは Zoom の選択についても、指摘事項があれば対面とするが、施設による感染の懸念も鑑み Zoom 対応も可能とする柔軟な対応を取っている。

D. 考察

1) 南大阪医療安全ネットワーク活動については、内容を可能な限り現場の希望に対応しつつ、中小病院の医療安全レベルの底上げに必要と思われる情報を提供し、咀嚼を促す活動を繰り返すことで、全国的に参加希望者を得ている。一方で、対面による理解度の促進、討論参加などへの満足度についての声は多く、全国的に同様の活動が行われることを期待するが、現在同様の活動を行っている地域は少なく、Zoom 開催の声は大きい。このような活動の広がりによる効果は、単に医療安全管理者の知識、意識獲得のための費用のみならず、中小病院の現場の医療安全レベルの向上に寄与するものと考えるが、これを費用対効果の観点で考えることについては、その是非も含め慎重に検討する必要はあるものと考ええる。

2) 南大阪地域での医療安全対策地域連携体制については、当初懸念された、受審対象施設への不満と継続して同一施設と審査することによる形骸化の回避、一方で相反する概念としての、継続して改善されている課題についての経過観察の必要性という 2つの問題の解決策として、南大阪医療安全ネットワークでは、登録病院間で毎年組み合わせを変えて審査を行い、その情報をグループ内で共有することで参加施設の良好な満足度を得ている。

3) 今後、南大阪医療安全ネットワークの意義とその評価について、費用対効果検討の可能性について話し合い、情報収集を行うこととした。

E. 結論

1) 2) のそれぞれの活動について、明確な経済的な効果を引き出すことは、現状ではできていないが、これらの課題の本質は、いかに形式的な対応に終始せず、地域医療安全レベルの底上げという「適応課題」を単純な「技術課題」と解釈せず、その意義を多様な視点から引き出す姿勢も併せて必要である。

参考文献

1) 医療安全地域ネットワークをつくらう

辰巳陽一、楠本茂雅、長谷部圭司、松島元子、病院安全教育 4(2) 49 - 67 2016 年 10 月

2) 前向き医療安全 第5回 南大阪医療安全ネットワーク軍団の野望!~High Reliability Organization から High Reliability Area へ!、辰巳陽一、病院安全教育 3(5) 21 - 26 2016年4月

#### F. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表

なし

#### G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし